

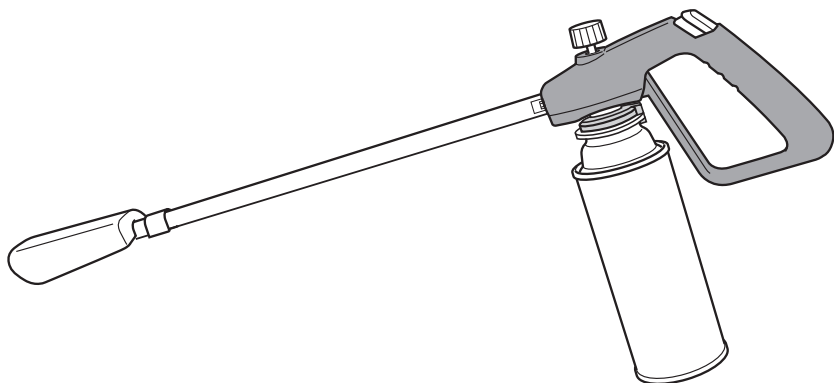
SOTO FIELD CHACKER VI

フィールドチャッカーVI (シックス) ST-417

取扱説明書

〈生産物賠償責任保険付・保証書付〉

このたびは「フィールドチャッカーVI ST-417」をお買い上げいただき誠にありがとうございました。



注意

正しくご使用していただくため
ご使用前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。またお読み
いただいた後も大切に保管して
ください。

目次

特に注意していただきたいこと	1~2
各部の名称/仕様	3
使用方法	4~5
故障・異常の見分け方と処置方法	6
日常の点検・手入れ・保管	6
アフターサービス	7

屋外専用

◆特に注意していただきたいこと

イラストの横にある ㊄ マークは禁止、! マークは強制を表します。

危険 (取扱いを誤った場合、使用者が死亡、又は重傷を負う危険が切迫して生じることが想定されることを示します。)

■容器(ボンベ)の過熱厳禁

- 炎や熱を容器(ボンベ)に近づけないでください。熱で容器(ボンベ)の圧力が上がり爆発する危険があります。



■火口ののぞき込み厳禁

- 点火時、使用中及び消火時は火口をのぞき込んだり人に向けたりしないでください。やけどのおそれがあります。



警告 (取扱いを誤った場合、使用者が死亡、又は重傷を負う可能性が想定されることを示します。)

■やけどに注意

- 燃焼中や消火直後は、火口及びその付近が高温になっていますので手を触れないでください。やけどのおそれがあります。



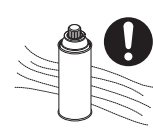
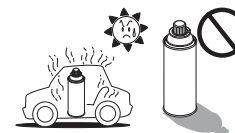
■容器(ボンベ)交換時の注意

- 容器(ボンベ)の交換は必ず火を消してから行ってください。火をつけたまま交換するとやけど、火災の危険があります。



■使用容器(ボンベ)の取扱上の注意



- 使用容器(ボンベ)はSOTO製品専用容器(ボンベ)ST-700、760を必ずご使用ください。
- 容器(ボンベ)に表示されている注意事項をよく読んでからご使用ください。
- 容器(ボンベ)の過熱により爆発するおそれがありますので以下のような行為は禁止します。
 - ・容器(ボンベ)を火の中に投げ入れる。
 - ・容器(ボンベ)をストーブ、ファンヒーターなど熱気のアたる所や直射日光のアたる場所、また高温になる場所に放置する。
※特に自動車内は非常に高温になりますので注意してください。
 - ・容器(ボンベ)が40℃以上になる場所で使用する。
- 容器(ボンベ)を使用しない時は、40℃以下の湿度の少ない場所にキャップをして保管してください。また容器(ボンベ)はときどき点検してサビが発生している場合にはできるだけ早く使用してください。
- 容器(ボンベ)に強い衝撃をあてないでください。



■使用済み容器(ボンベ)の処理に関する注意

- 容器(ボンベ)を振ってサラサラと音がする場合はまだガスが残っています。そのまま温度の高い所に放置したり、火の中に投入すると爆発する危険があります。
- 容器(ボンベ)は完全に使いきってから他のゴミと区別して捨ててください。(各自治体の処理方法に従って捨ててください。)

◆特に注意していただきたいこと



イラストの横にある  マークは禁止、 マークは強制を表します。

警告 (取扱いを誤った場合、使用者が死亡、又は重傷を負う可能性が想定されることを示します。)

■炭の火起しにご使用の際の注意

- 炭の火起しの際は、火が起きたらすぐに器具を消火し火元から離して置いてください。
- 従来のバーナーに比べ炭の跳ね返りが少なく安全ですが、炭の火起しの際はけが、やけど、火災には十分気をつけてください。燃えやすい物からは十分距離をとってご使用ください。
- 火口で炭を割ったり移動させたり、火口を炭火の中に入れてそのまま使用したりしないでください。器具の破損や容器(ポンペ)が過熱する恐れがあります。
- 炭の火起しの際は、手袋・保護メガネ等をして、やけどには十分気をつけてください。またまわりの人、特にお子様からは十分な距離をとってご使用ください。

■火災に注意

- 使用の際は、消火用の水又は消火器を用意し、火災には十分注意してください。  
- 使用後は器具や燃やしたものの消火を必ず確認してください。必ず水をかけ、火だねが残っていないことを確認してください。
- 風の強いとき、火災発生のおそれがある時は使用しないでください。
- 火災は思いつきかたから発生することがありますので十分注意してください。
- 使用後、時間をおいてから再度消火を確認してください。
- 燃やしてはならない物、場所にはあらかじめ水をかけておいてください。

注意 (取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険、及び物的損害のみの発生が想定されることを示します。)

■落下禁止

- 手でしっかりと持って作業してください。予想しない事故が発生するおそれがあります。



■上向き使用禁止

- 火口を上に向けて使用しないでください。

■屋外専用

- 必ず屋外で使用してください。また容器(ポンペ)の着脱も屋外で行ってください。

- 使用の際は、まわりに人や動物がいないことを確かめてください。

- お子様には絶対使わせないようにしてください。またお子様の手の届かぬ場所に保管してください。

- 使用しない時は容器(ポンペ)をはずしてください。

■異常時使用禁止

- 正しい使用方法を行っても異常燃焼を起こした場合、また「故障・異常の見分け方と処置方法」の手順を行っても症状が改善されない場合は使用しないでください。ご不明な場合はご自分で修理なさらずに、お買い求めになった販売店又は当社「お客様係」フリーダイヤル0120-75-5000までご相談ください。

◆アフターサービス

アフターサービスのご依頼をされる前に「故障・異常の見分け方と処置方法」を見てもう一度確認してください。確認の上ご不明な場合は、ご自分で修理なさらず、お買い求めになった販売店または当社「お客様係」フリーダイヤル  0120-75-5000までご相談ください。


フィールドチャッカーVI ST-417 保証書

この製品は万全を期していますが正しいご使用にもかかわらず万一故障した場合は本保証書に製造番号、お買上げ年月日、販売店名、ご芳名、ご住所、お電話番号および症状をお書き添えのうえ、お買上げの販売店に修理をご依頼ください。

製品名・型式	フィールドチャッカーVI ST-417	ご芳名
製造番号		ご住所
保証期間	お買上げ日より1年間	お電話 ()
お買上げ日	平成 年 月 日	
取扱販売店・住所・電話番号		症状

新富士バーナー株式会社

品質保証規定

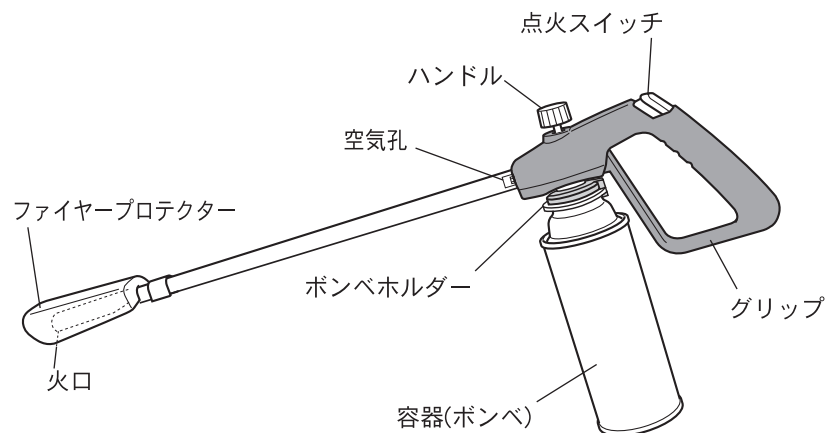
- ※この保証規定は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
- 保証期間内に、取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意に従った正常なる使用状態において、万一故障した場合には、無料で修理いたします。
 - 修理依頼時には、つぎの事項にご注意ください。
 - ・必ず商品と本保証書をご提示ください。
 - ・保証期間を過ぎた修理依頼も商品と本保証書をご提示ください。
 - ・商品と本保証書の提示のない場合は、修理をお断りすることがあります。
 - ・ご贈答品等で本保証書に記入してあるお買上げ販売店に修理をご依頼できない場合には、当社「お客様係」フリーダイヤル  0120-75-5000までご連絡ください。

- 保証期間内でも、つぎの場合は有料修理になります。
 - ・火口、ノズル、パッキン類等の消耗品の交換。
 - ・使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - ・お買上げ後の落下、移動、輸送等による故障及び損傷。
 - ・火災、地震、水害、落雷、塩害、弊社指定以外の燃料使用によるもの、その他、天災地変、公害による故障及び損傷。
 - ・保証書の提示がない場合。
 - ・本保証書の所定事項の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合。
- 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。
- 本保証書は再発行しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

製造発売元
新富士バーナー株式会社
 〒441-0314
 愛知県豊川市御津町御幸浜1号地1-3
 TEL0533-75-5000(代) FAX0533-75-5033
 http : //www.shin Fuji.co.jp/
 E-mail: info@shin Fuji.co.jp

◆各部の名称/仕様

■各部の名称



■仕様

寸法	150(高)X60(幅)585(全長)mm
重量	390g
火口径	φ25mm
炎長さ	240mm
炎温度	1,300℃
使用容器	SOTO製品専用容器(ST-700,760)
燃焼時間	約90分(ボンベ1本)※1
発熱量	4.2kW(3,600kcal/h)※2

※1 30分間の燃焼データより換算したものです。

※2 5分間の燃焼データを1時間に換算したものです。

⚠ 注意

炭の火起しの際にファイヤープロテクターで炭をかき分けたり割ったりしないでください。ファイヤープロテクターが破損するおそれがあります。

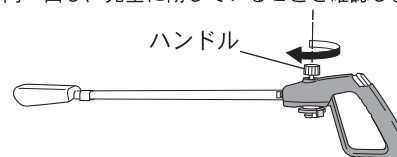
⚠ 注意

炭の火起しの際にファイヤープロテクターおよび火口を炭に近づけすぎたり、炭火の中に入れてください。器具が破損するおそれがあります。

◆使用方法

■容器(ボンベ)の取り付け

- 1.周囲に火気などのないことを確認します。
- 2.ハンドルをOFF(ハンドルの上からみて右回り)の方向へ回し、完全に閉じていることを確認します。



- 3.ボンベホルダーのガイド(凸部)が所定の位置(下から見て左側に止まるまで回した位置)(図1)にあることを確認します。

※容器(ボンベ)の取り付けの際は必ず容器(ボンベ)を垂直に行ってください。容器(ボンベ)を横にしたり逆さにして取り付けると点火時に生ガス(白い霧状のガス)が出やすくなり、危険です。

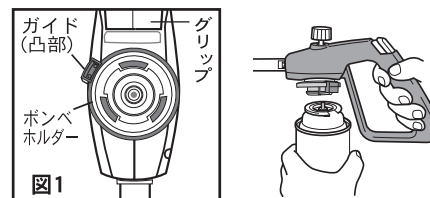
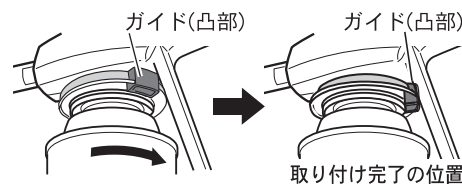


図1 本体を下からみた図

- 4.容器(ボンベ)の切れ込み部を、ガイド(凸部)に合わせ矢印方向に押し付けます。



- 5.ガイド(凸部)と容器(ボンベ)の切り込み部を右方向に止まる位置まで約60度回します。ガイド(凸部)がグリップと水平方向になった位置が取り付け完了の位置です。



⚠ 注意

容器(ボンベ)取り付け時の注意

容器(ボンベ)取り付けの際はボンベホルダーのガイド(凸部)が、所定の位置(左側に止まるまで回した位置)にあることを確認してください。所定の位置以外にあると容器(ボンベ)の取り付けができません。

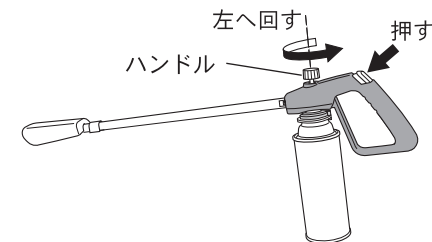
本体を下からみた図

⚠ 警告

ガス漏れに注意してください。容器(ボンベ)取り付け後、“シュー”というガス漏れの音やガスの臭いがする時は、容器(ボンベ)が正しく取り付けられていませんので、もう一度注意して確実に取り付けてください。それでも“シュー”という音が消えないときはガス漏れのおそれがありますので、使用を中止して点検・修理を依頼してください。

■点火

- 1.ハンドルをON(ハンドルの上からみて左回り)の方向へ回し(約90度回すとガスが出ます)ガスを出し、生ガス(気化されずに噴出する白い霧状のガス)が出ないことを確かめてから点火スイッチを押し点火します。点火しない時はガスの噴出量を少なくしてこの操作を繰り返します。気温、風、湿度などの自然条件により点火がうまくいかない場合があります。このような場合は先端部分の長いライターなどで火口先端から点火してください。



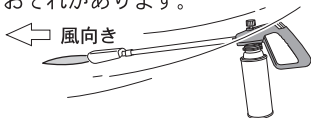
警告

生ガス(白い霧状のガス)が出た時は、点火操作はしないでください。生ガスに点火すると、赤い炎が大きく燃え上がり、やけどや火災のおそれがあります。

生ガスが出た時は一度ハンドルを閉じ、しばらくしてから再度ハンドルを開き、生ガスが出ないことを確かめてから点火スイッチを押してください。

注意

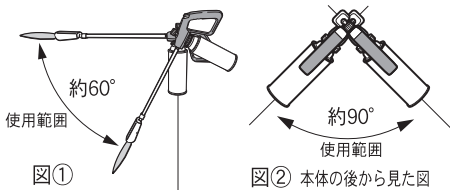
風のある時は火口先端へ風が流れる様追い風で、点火操作を行ってください。向い風で操作すると火が手元まで来てやけどをするおそれがあります。



注意

生火での使用禁止

火口を上に向けたり、本体をゆすったりすると生ガス(白い霧状のガス)が出て赤い炎が大きく燃え上がり、やけどや火災のおそれがあります。安全のため火口は図①のように水平より下向きに約60°、容器(ボンベ)は図②のように左右約90°の角度の範囲内で使用してください。



生ガスが出たときはハンドルを閉じ完全に消火したのを確認後、火口を使用範囲の角度で下向きにし、しばらくたってからもう一度ハンドルを開け点火してください。

■火力調整

火力の調整は炎を確認しながらハンドルで調整します。

■緊急時の消火方法

手元まで大きな炎がきたり、本体樹脂が燃え上がるなど緊急の場合は、まずハンドルを閉じ、水につけるか消火器を使って消火します。消火を確認後、容器(ボンベ)を取り外し、お買い求めになった販売店または当社「お客様係」フリーダイヤル0120-75-5000まで点検、修理を依頼してください。

注意

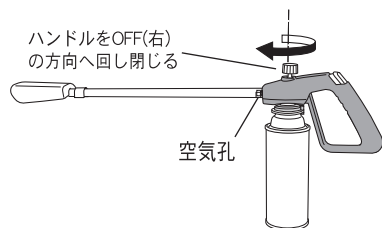
消火用の水、又は消火器を必ず準備してから使用してください。



■消火

1.ハンドルをOFF(ハンドルの上からみて右回り)の方向へ回らなくなるまで回し、消火を確認します。

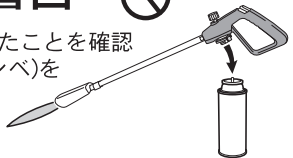
※消火の際に空気孔より「ヒュー」という音と同時に炎が一瞬出る場合がありますが異常ではありません。



2.完全に消火した後、容器(ボンベ)を取り外し作業を完了します。

警告

完全に消火したことを確認後、容器(ボンベ)を取り外してください。



◆故障・異常の見分け方と処置方法

原因 \ 現象	火力が弱い	炎の色が赤い	着火(ガスは出ている)が火しにくい	ガスが出ない	ガスのおいがする	処置方法
ノズルのつまり	○	○		○		点検・修理を依頼する。
燃料が残り少ない	○					残りの燃料を使いきってから、新しい容器(ボンベ)と交換する。
生ガス(白い霧状のガス)が出ている		○				一度ハンドルを閉じ、ガスの噴出量を少なくして着火する。
ガス噴出量が多い			○			一度ハンドルを閉じ、ガスの噴出量を少なくして着火する。
容器(ボンベ)の取り付け不良				○	○	ハンドルを閉じ、一度ボンベを取り外し、もう一度容器(ボンベ)を説明書どおり取り付ける。
点火装置の故障			○			点検・修理を依頼する。

※低温時または、長時間連続使用の場合に火力が弱くなることがありますが器具の故障ではありません。

◆日常の点検・手入れ・保管

■点検・手入れの際の注意

- 日常の点検・手入れは必ず行ってください。
- 点検・手入れは消火し、火口が完全に冷めてから行ってください。
- 故障又は破損と思われるものは使用しないでください。
- 不完全な修理は危険です。万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、お買い求めになった販売店または当社「お客様係」フリーダイヤル 0120-75-5000までご相談ください。

■保管

- 使用しない時は容器(ボンベ)を取外して保管してください。
- 子供の手の届かぬ場所に保管してください。
- 直射日光の当たる場所に放置したり、雨ざらしにしないでください。
- 転倒・落下させないでください。

◆炭の火起しのコツ

Step1

炭を組む

大きすぎない炭を選んで空気が入りやすいようにピラミッド型や井型に組みます。



Step2

フィールドチャッカーVIで着火

下の方から炭を赤くなるまで熱します。(約3~5分)

●火口を炭火に近づけすぎたり、炭火の中に入れてください。火口の劣化や破損のおそれがあります。

●備長炭などは一部を集中して熱すると、中の水分が急激に加熱によって水蒸気になり、激しくはじくことがあるので注意してください。



Step3

うちわで扇ぐ

ある程度炭に火がついたら「うちわ」で扇ぎ始め、炭のまわりが白っぽくなるまで扇ぎます。(さらに約5~10分)

●ある程度炭に火がついた後は、うちわで扇ぐことにより効率よく火起しができます。火が起きた炭を必要以上にフィールドチャッカーVIで熱すると火口が過熱し、火口の劣化や破損のおそれがあります。

